

パーキンソン病患者のダンス活動を通じた社会参加に関する研究

地域共創学部
 地域づくり学科
 教授



古賀 弥生

研究シーズの紹介

福岡に住むダンスアーティスト・マニシアが2016年から開始した、パーキンソン病患者を対象としたダンス活動を紹介します。この活動はPDダンスと名付けられており、parkinson's danceとperfect danceの両方の意味を持つ。PDダンスは、患者の身体面、精神面だけでなく、社会活動や表現としての側面にも影響を及ぼしている。

メンバーは月1回のワークショップのほか、これまでに3度のステージ発表も行い、今回の国際コンгрессのオープニングセレモニーでもPDダンスのメンバーがパフォーマンスを披露した。本研究ではダンス活動による患者への影響について、参加者へのグループインタビューを通じて明らかにした。



ダンスによる社会参加

- ダンス活動により病を持ちながらも社会性やQOLを維持できます。
- 患者の家族やボランティアを支えることにもつながります。

インタビューから明らかになった、患者への効果

- ・日頃は歩けない、バックできないのにダンスではできる～**身体性**
- ・(いいときの) 気が出ている～**精神性**
- ・ダンスに参加するためにLINEを覚えた～**社会性**
- ・無意識の自分の表現、生きていること＝表現～**表現性**

(72歳男性。患者歴7年。PDダンス歴10か月) 患者じゃない人たち(指導者など)との面識もできましたから、普通の社会生活の一環として楽しいです。最近、これで(この活動に参加するために)覚えたんですよ、LINE。

(患者の家族)いつもイタイとか、きつい、しかも聞かないです。(ここでは)笑ってるのがすごい。昔と比べてしまって、あ、これできてたのになーと(思ってしまう)…。ここは昔の、できる母が見える。

期待される活用シーン

- 健康長寿社会の構築に向けて、芸術文化の力を活用できないか?
(文化行政・福祉行政)



全国的に推進されている医療・福祉分野での芸術文化の活用例の中でも先進的な取り組みに。



- 高齢者と家族に喜ばれるような特色あるサービスを提供できないか?
(高齢者福祉施設運営者)



通常のリハビリやレクリエーションとは一線を画す活動で施設利用者等の満足度が向上。



その他の研究テーマ

- ・応用演劇によるホームレス状態の方への就労自立支援
- ・フリースクールでの演劇ワークショップ